

SDGs から見える 10年後の会社の未来

「中小企業・製造業におけるサステナブル経営」

中小企業・製造業におけるSDGsの取り組みとは？今回は、省エネ・省人・無人化への投資を続けると共に、人的資本(技能向上・働きやすい職場環境づくり)にも注力する株式会社フクネツの取り組みを紹介します。

シンワラボ 株式会社 代表取締役 加藤 シゲキ

第6回 株式会社 フクネツ

■代表取締役 ながしま せいいちろう 永島 誠一郎

■本社／福岡県糟屋郡篠栗町和田5丁目2番14号

■TEL 092-947-5652 ■URL <https://kkfukunetsu.co.jp>



会社概要

株式会社フクネツ（以下、フクネツ）は、1969年7月に創業。金属熱処理、機械研削加工を主な事業として成長。現在では、金属製品として品質面でトップランクの土ミクロン単位の精密機械部品を製造する会社である。

当時、九州では本格的に金属の熱処理を行う会社が少なく、チャンスありと古賀町（現・古賀市）で創業。1979年、事業拡大に合わせ、糟屋郡篠栗町和田の鉄工団地へ移転。現会長・永島駿治氏（前社長）は社は「挑戦と和」を掲げ、常に新しい技術革新への地道な努力を続けた。創業から現在に至るまで、大きな二度の転機を乗り越え、フクネツは大きく飛躍する。

2010年、リーマンショックで大幅な売上減少に苦しむ中、取引先の大手精密機械部品メーカーからアクチュエーター部品（※1）の熱処理事業を受託。大型トレーラー20台分の機械設備ごと借入れる「大移管プロジェクト」であった。同時に5名の若手社員を関東の工場へ派遣し、短期間で操作技術を習得した。今も



代表取締役 永島 誠一郎

稼働する移管設備の導入から程なく、新規注文が一気に増加。深夜に及ぶフル操業が常態化し、売上は倍増した。

2017年、フクネツは二度目の大きな転機を迎える。先述の大手精密機械部品メーカーの製品移管に伴い、熱処理に加え、加工工程を全面的に引継ぐことに。この二度の転機からフクネツの主な加工製品は自動車関連部品から精密機械部品へと変遷。より高精度な

加工を要求され、新しい製造機器を導入、一層の加工技術の向上を追求し続けた。同時に生産力拡大に伴い、人材確保が急務となり、以前から着目していた外国人材の正社員採用もこの時期からスタートする。

翌2018年、創業50周年を迎え、現社長・永島誠一郎氏が三代目社長就任。着任早々、高付加価値製品の販売拡大へ向け、様々な取り組みを開始。社内組織の若返りを図り、生産

管理体制を強化。また中

小企業庁「経営力向上計画」の認定を受け、各種補助金や税制優遇を活用、財務体質の改善も図った。時代の変化を見据え、省エネ・省人・無人化設備への投資を行う等、「サステナブル経営」(※2)を強力に推進している。

(※1) 工作機械や半導体製造装置等を使用される精密機械部品

(※2) 環境・社会・経済の持続可能性に配慮することで、事業の持続可能性向上を図る経営



熱処理第一工場内 左.ピット型焼入炉／右.中性塩浴炉 創業から現在も稼働中のソルトバス(ひとつの炉で創業)



今林 寿敏(製造部部长)

省エネ・省人・ 無人化への取り組み



フクネツでは、「熱処理設備の無人監視システム」を20年前より導入。改良を重ね、現在は3台の自動熱処理設備が24時間体制で稼働中。結果、夜勤者数の軽減や生産量の拡大へ貢献。100%電力稼働でガス燃料ゼロ等、CO₂削減・環境面でも大きな効果を発揮。

高額の設備投資だけに、段階的に旧型機械からの入替えを進め、一層の自動化による省人・無人化を推し進めている。

フクネツでは、熱処理をはじめ機械加工等、ほぼ全ての動力エネルギーが電力。ガス燃料による熱処理会社が多いなか「創業から多品種少量加工が多く、ガスを使用するより電気の方が安全だった」と永島社長は振り返る。現在の主力製品である精密機械部品の加工性能においても、電動機械に性能面でアドバンテージがある。

また加工工場内は、デマンドコントローラー(※3)による温度調節を行っている。温度による金属膨張を防ぎ、加工精度を上げる目的で導入した装置だが「最近では、電気代コントロールで大いに威力を発揮している」と製造部の今林部長は、他工場への導入も検討している。

(※3)デマンド値(30分間に使用した電力の平均使用量)を監視しエアコン等の間引き運転を自動制御することで効率的に節電できる最先端システム

ダイバーシティ、 働きやすい職場環境づくり



フクネツが外国人材の正社員雇用を始めたのは2017年。「日本語能力を重視し、技・人・国ビザ(※4)で働ける外国人を正社員採用しようと考えた」と永島社長。最初に、日本企業で勤務経験があるベトナム出身者2名を正社員として採用。現在、ベトナム人社員10名、1期生がリーダー役として活躍中。「国籍に関係なく社員として能力を評価。管理職への登用を検討している」と永島社長はその成長に手応えを感じている。

事務だけでなく、工場で働く女性社員も増え、子育て中の社員の要望に応え、就業規則を改訂。「二時間単位の有給休暇」が取得可能となった。「男性社員の育児休暇の取得率は100%。会社が目指す省エネ・省人・無人化によるメリットを社員に実感してほしい」と人事総務を担当する花田総務部長。

フクネツでは、未経験者でも技能を取得できるよう研修体制を整備している。毎週、知識



機械課 ヴ・ホアン・リン(2017年入社)

勉強会(座学)を開催。会社推奨資格については、外部研修や資格取得の費用を会社が実質的に負担する。資格取得後は、技能手当による昇給もあり、技能向上を人事制度面でも後押ししている。

また職場の労働安全衛生においては、二つの活動を柱に推進を行っている。健康経営(※5)と「5S活動」である。健康経営は、各職場の代表者が安全衛生委員会委員と兼務で推進を担う。協会けんぽや外部専門家も活用し、健康課題を改善する。経済産業省「健康経営優良法人」認定を4年連続で取得。その活動



機械課 レ・ドック・ニャット(2018年入社)

内容を会社HPにて公表している。「5S活動」(※6)については、自社だけでなく、福岡県内の製造業7社と協力して推進。毎年、メンバー企業による相互点検を行う。「他社による点検は、非常に緊張感があり、日々の労働安全への意識を維持するのに大変役立っている」と永島社長。「他企業と相互研鑽する5S活動」は、フクネツの企業文化の一つと言える。

(※4)技術・人文知識・国際業務ビザ。企業や団体と契約し、事務職やエンジニアなどの専門的・技術的な素養を必要とする

(※5)健康経営とは、従業員の健康増進へ投資を行い、



機械課 古賀 千葉里(2022年入社)



機械課 江藤 静香(2021年入社)

労働生産性の向上や採用・定着の促進、社員エンゲージメント向上を図るための施策

(※6)5S活動とは「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」のローマ字表記の頭文字。現場の環境維持や業務効率を上げる、5つの要素への取組活動



2024年度 安全衛生委員会(健康経営推進委員会)メンバー
 【前列左から】須田 陽孝(機械課)／西山 正和(機械課技師)／常務取締役 横手 健／代表取締役 永島 誠一郎／取締役・総務部長 花田 茂／渡邊 志津佳(総務部) 【後列左から】原 智洋(熱処理課)／岩崎 雅浩(機械課)／菊池 佳治(機械課課長)／有川 聖行(熱処理課課長)／取締役 長 真美



2023年11月18日 社員旅行(宗像大社)



労災防止教育・足腰強化トレーニング

■ 取材ノート

シンワラボ 株式会社 代表取締役 加藤 シゲキ

経済産業省 九州経済産業局 SDGsパートナー機関
<https://shinwalab.jp> mail:s.kato@shinwalab.jp



2050年カーボンニュートラル(温暖化ガスの実質排出ゼロ)達成へ向け、グリーン転換フォーメーション(GX)推進法が昨年成立。2026年からCO₂多排出企業への削減目標設定や達成に強制力を課す方向での制度改正が先日発表された。いよいよ中小企業も炭素税や排出量取引といった炭素価格(カーボンプライシング)を意識せざるを得ない状況となる。

今回取材のフクネツは、リーマンショックをはじめ“ピンチをチャンスへ”転換し、成長を果たしてきた企業。金属熱処理はCO₂多排出事業。経営環境が厳しくなるなか、永島社長は省エネ・省人・無人化への投資を続け、更なる成長戦略を描いている。同時に、人的資本(技能向上・働きやすさ)への投資を進めている。工場で多様な人材がいきいきと元気に活躍する姿が強く印象に残っている。



熱処理第二工場 「無人監視システム付パッチ型光輝多目的熱処理炉」前にて取材